

宇都宮大学農学部附属演習林報告執筆基準

制 定 昭和52年 1 月 19日
一部改正 平成元年 2 月 23日
一部改正 平成11年 3 月 17日

1 原稿の形式は次のとおりとする。

論文： 1)表題、2)要旨（和文及び欧文）、3)本文、4)引用文献、5)図、表、写真（それぞれ別紙とし、台紙に張り付ける）

資料： 1)表題、2)本文、3)引用文献、4)図、表、写真（それぞれ別紙とし、台紙に張り付ける）

表題には、和文原稿の場合、①和文表題 ②著者名 ③欧文表題 ④著者のローマ字書きフルネーム及び⑤欄外脚注を記載する。欧文原稿の場合は、③、④、①、②、⑤の順に記し、いずれの場合もページを改めて本文を書くこと。

原稿には、次の各項を記載した別表を添えること。

①

名 ②表題 ③原稿の種類 ④原稿用紙の枚数 ⑤図、表、写真のそれぞれの数量 ⑥別刷の所要部数 ⑦連絡責任者 ⑧その他

2 原稿は新かなづかいにより、学術用語以外は当用漢字を用いる。

3 和文原稿はワードプロセッサ等を用いて作成し、A4判の白紙に上下左右3 cm程度の余白をとり、横30字×縦20行に整える。

欧文原稿はワードプロセッサまたはタイプ打ちとし、A4判の白紙に上下左右3 cm程度の余白をとり、2段送りで作成する。欧文は原則として英文とする。

4 要旨は、原則として和文約500字以内、欧文約300語以内とする。要旨の最後に、論文内容を的確に示すキーワード（日本語及び欧語）を5語以内記載する。

5 継続研究の報文表題は、主題の1報、2報などの表示は（Ⅰ）、（Ⅱ）とし、副題については（1）、（2）とする。

6 活字体にゴシック体を指定するときはForestryのように波線の、イタリックを指定するときはForestryのように直線のアンダーラインを朱記すること。

7 動物、植物の和名はカタカナで書き、学名は属、種、変種、品種部分はイタリック体で書く。

8 数字はアラビア数字を用い、百万、千の桁にカンマをつける。二、三などの漢数字の使用は三角形、二重結合、二三の例、などに限る。

9 単位は原則としてc. g. s単位系を用い、慣用となっている略字によって記載し、ピリオドはつけない。

10 外国の人名、地名及び欧語の用語などは原語のままとするが、慣用的に広く用いられる場合はカタカナを使用してもよい。

例：アメリカ、ポアソン比

11 図、表、写真は1件ごとに別紙とし、表題にはそれぞれ通し番号をつける。また、上端欄外右に、鉛筆で著者名、通し番号をつける。

12 図、表、写真を入れたいおおよその位置を、本文原稿該当箇所の欄外右に朱記して指定する。本文中には空白を設けない。

13 図は印刷される大きさの約2倍大に描く。トレーシング用紙など薄手の紙を用いた場合は、必ず白色厚手台紙にはる。表題は図の下方に記載する。

14 表は原則として1ページに印刷できる限度以下とする。表の縦けいは原則として省き、横けいもできる限り省略する。表題は表の上方に、注は表の下方に記載する。

15 写真は鮮明なものを用い、はぎとりやすい程度に台紙にはりつける。表題及び注は、台紙の下方に記載する。

16 引用文献は著者名のアルファベット順に配列する。共著者は全員記載すること。学術雑誌の略名は慣例による。

17 引用文献の記載例

雑誌：番号) 著者名：表題、雑誌名、巻(号)、最初のページー最後のページ(年号)の順に記載する。通年ページのある雑誌は号を省いてもよい。巻は太字とする。

例 1) 井上源基：タワーヤード集材における適正索張り線密度の検討、森利学誌、**13**(2)、p99-110(1998)

例 2) Yoshizawa, N. & Idei, T.: Comparative histochemistry of wood cell wall degradation by white-rot fungi. Bull. Utsunomiya Univ. For., **25**, p23-38(1989)

単行本：番号) 著者名：書名、発行所、所在地、ページ、年号の順に記載する。編を記載する場合は発行所の前に・・・編を入れる。

例 1) 梅田三樹男・辻隆道・井上公基：標準功程表と立木評価、日本林業調査会、東京、p 79-81(1982)

例 2) Preston, R. D.: "The Formation of Wood in Forest Trees", Zimmermann, M. H. ed., Academic Press, New York, p12-35(1964)